

伊那谷産サツキヒナノウスツボについて

高橋 秀 男

Hideo Takahashi : On *Scrophularia musashiensis* in Ina Valley

筆者は長野県植物誌編纂に当りゴマノハグサ科を分担し、そのなかでもとくにゴマノハグサ属やコゴメグサ属に関心をもって調査を進めている。今回サツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* の分布を調べるために、伊那谷の自生地を訪ね、その生態や形態を観察してきたところ、本県産は関東、近畿地方産とは形態的に若干差異があることに気づいたので予報的に報告しておくことにした。

伊那谷産サツキヒナノウスツボの標本はハーバリウムに多数収蔵されていたが、執筆に当たっては現地の生態調査が必要になり、高森町、宮田村黒川、駒ヶ根市池山などを歩き生の標本を収集した。一方比較のため関東産は栃木県柏倉と高尾山の現地調査を実施した。また東京農業大学植物教室の学生からは奥多摩産の標本の提供も受けた。滋賀県産については滋賀県立短期大学の小林圭介氏を煩わし、生の標本を採集していただいた。ほかに国立科学博物館、信州大学、京都大学、神奈川県立博物館の標本も検討した。

まず本旨に入る前にサツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* とヒナノウスツボ *S. duplicato-serrata* の差異について述べる。

サツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* は花序は葉腋に付き葉より短く、さく果は卵状球形で下部が太く丸く上方へ次第に細くなり、花期は4月下旬～5月と春先に咲く。はじめ秩父・奥多摩・小仏山地に限られた分布域をもっているとされたが、山崎敬(1962・1964)は、秩父・奥多摩から飛び離れて本県の本巣駒ヶ岳北部から南駒ヶ岳の伊那側山地にも分布することを報告した。北村四郎ら(1968)はかけ離れた滋賀県犬上郡多賀町にも分布することを明らかにした。

類似のヒナノウスツボ *S. duplicato-serrata* は花序が主として茎の頂に付いて大きな円錐状花序をなし、花も小さく、さく果は球形であるが、最も異なる点は花期は7月～9月と遅いことである。本州(関東、中部以南)、四国、九州に分布し、本県でも南半部に点在分布する。

伊那谷産サツキヒナノウスツボと分布域のかけ離れた関東や近畿地方産と外形形態を比較した結果、

次のような差異が明らかになった。

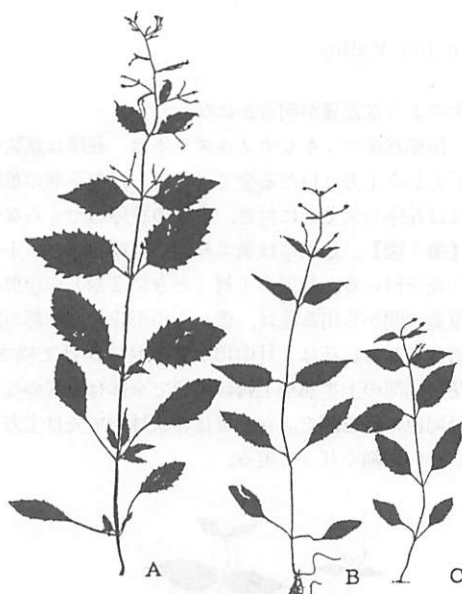
伊那谷産サツキヒナノウスツボは、花序は葉腋の下方から上方にいたる全て(しばしば最下部の葉腋には花序を欠く)に付き、頂生の花序はつくらない【第1図】。葉腋には葉より短い花序を出し、1～3花を付ける。茎頂の1対(ときに2対)の小形の苞葉の間から出る花は、著しく小形化した球形の閉鎖花となる。花は5月中旬から6月にかけて咲き、花冠筒部の上半部や上唇は褐色で全体は光沢のない緑褐色の花を開く。さく果は卵状球形で先は上方へしだいに細くなって尖る。



【第1図】伊那谷産サツキヒナノウスツボ
A, 駒ヶ根市池山. B, C, 宮田村黒川溪谷

一方かけ離れた分布域の奥多摩・秩父・小仏山地や伊吹山地に産するサツキヒナノウスツボでは、多くは疎らな円錐花序を頂生する。しかし、ときに上部の小形の苞葉の間に、葉より長く伸びた花序を付け、それに続く大形の葉腋には、葉より短いかときに同長の花序を付ける【第2図】。しばしば、茎頂に閉鎖花を付ける個体もあるが、それはごく稀であ

り、貧養の地にはえた小形の個体も、茎頂の葉腋の花は開花し閉鎖花とはならない。花の色も花冠筒部の上半部や上唇は光沢のある赤褐色である。



【第2図】サツキヒナノウスツボ

A, 栃木県皆川城内柏倉. B, C, 東京都高尾山

以上比較したように、伊那谷産サツキヒナノウスツボは奥多摩・秩父・小仏山地や伊吹山地産サツキヒナノウスツボと花序の付き方や花冠の色が異なる集団であることが明かになった。

伊那谷におけるサツキヒナノウスツボは中央アルプスの伊那谷に分布し、溪畔の水辺にはえ、垂直的には標高1000～1800mにみられる。伊那谷産の集団になぜこのような形態的な分化が起こったのか、それは気候的な要因と密接不離な関係があるように思われるが、今後の研究課題であろう。

まとめに当たり、検討した標本産地は次の通りである。

伊那谷産サツキヒナノウスツボ

伊那市小屋敷1150m, 1981 5, 23. 馬場多久男 (SHIN 101450-花)。

宮田村不動滝1300m, 1981 8, 4. 馬場多久男 (SHIN 101131-果実)。宮田村黒川溪谷, 1989 6, 19. 高橋秀男 (KPM 77736-果実)。

駒ヶ根市池山1300m, 1981 6, 20. 馬場多久男 (SHIN 101369-果実)。駒ヶ根市池山, 1989 6, 19. 高橋秀男 (KPM 77735-果実)。駒ヶ根市しらび平付近, 1976 7, 6. H. Takahashi, et Y. Yokoya-

ma, S. Maruyama (KPM77732-果実)。駒ヶ根市北御所谷, 1976 7, 7. H. Takahashi (KPM 77731-果実)。

高森町不動滝1150m, 1984 7, 14. 馬場多久男 (SHIN 104352-果実)。高森町不動滝, 1989 5, 29. 高橋秀男 (KPM 77733-花)。

ほかに飯島町(TNS 149206), 伊那市小横川谷(TNS 149212)の標本を閲覧した。

サツキヒナノウスツボ

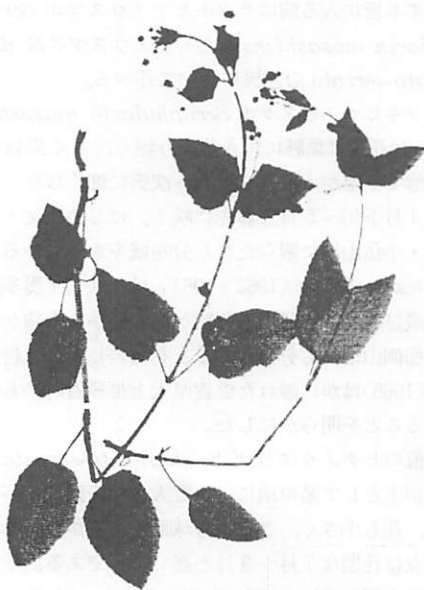
栃木市皆川城内柏倉, 1989 5, 21. 勝山輝男 (KPM 77727-花)。

東京都御岳山～大なら峠, 1985 5, 19. 小崎昭則 (KPM 73231-花)。東京都御岳, 1950 5, 3. 大場達之 (KPM 44851-花)。東京都氷川町日原天粗山750-1100m, 1958, 7, 15. 古瀬義 (KPM 50854, 50855-果実)。東京都名栗溪谷, 1960 5, 8. 中村武久 (KPM 6024-花)。東京都八王子市恩方, 1955 5, 3.

大場達之 (KPM 44852, 44850-花)。東京都奥多摩川苔谷, 1958, 6, 8. 大場達之 (KPM 44860-花, 44865-果実)。東京都奥多摩川苔谷高指山, 1949 5, 22. 大場達之 (KPM 44854-花)。

東京都高尾山, 1989 6, 3. 高橋秀男 (KPM 77734-果実)。群馬県桐生市鳴神山系城山 1984 6, 10. 清水孝治 No.84-769 (KYO)。

埼玉県釜伏峠周辺 1963 4, 21. 佐竹義輔 (KYO)。



【第3図】サツキヒナノウスツボ

滋賀県多賀町産

Pref. Saitama: Chichibu Totugawa in Shiroku alt. ca 500m. May 5, 1990. H. Ohhashi & Y. Tateishi (KYO).

滋賀県犬上郡多賀町権現谷 1990 5, 小林圭介 (KPM 77730)。Pref. Shiga : Ochiai, Taga-cho, Inukami-gun. May 5, 1968. Kana Nagai (KYO) 【第3図】。Pref. Shiga: Mt. Ryozenyama Maebara-cho, from Kaminyu to the summit, alt 700m. May 16, 1982. G. Murata-55620 (KYO)。Pref. Shiga : Kawachi, Taga-cho, Inu-kamigun. May 18, 1969. G. Murata-20620 (KYO)。

福井県三方郡能登町250m 渡辺定路-22980, 1983 5, 22 (KYO)。

ハーバリウムの略称 TNS=国立科学博物館, SHIN=信州大学, KPM=神奈川県立博物館, KYO=京都大学。

終わりに本稿の執筆に当たり、生育地のご案内をして下さった栃木市在住 古瀬義氏、資料収集にご

協力を賜った滋賀県立短期大学 小林圭介氏、東京農業大学生物教室の皆さん、生育地についてご教示賜った高尾自然科学博物館 新井二郎氏、標本の閲覧をご許可下さった国立科学博物館、信州大学、神奈川県立博物館、京都大学のハーバリウムの先生に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

山崎敬 1949 東亜産ゴマノハグサ属(1) 植物研究雑誌23:79-88

山崎敬 1950 東亜産ゴマノハグサ属(2) 植物研究雑誌25:7-14

山崎敬 1962 アジア産ゴマノハグサ科植物新知見 植物研究雑誌37:263-273

杉本順一 1963 植物断片記(6) 野草275:76

山崎敬 1964 サツキヒナノウスツボの分布 植物研究雑誌39:378

北村四郎編 1968 滋賀県植物誌 p66 京都。

〔新刊紹介〕伊藤浩司編著「釧路湿原の生物社会と合理的利用法に関する調査報告書」B 5判, 157頁, 1992年刊。釧路市。

本会会員の松田行雄氏が、一部を共同執筆されている。1987年釧路湿原が国立公園に指定されることになったが、その際、当湿原をいかに保全し、かつ利用するかに関して、釧路市が編者に調査を委託し、その結果の報告である。報告書の目次は、1. 序言、2. 植物群落と泥炭層の解析、3. 釧路湿原の高等植物相と細胞地理学的研究、4. 水質化学的研究、5. 釧路湿原の観光、6. 結論となっている。文中には、群落組成表、フロラリストが掲載されている。釧路湿原は、約3万haと広く、かつ日本でこれだけ原始的な景観を有した湿原はない。しかしその学術的な調査、研究は少なく、このような総合的な研究は今回初めてといわれている。従って、その調査結果は、本書の主目的ばかりでなく、日本の湿原研究に学術的に貴重な成果を与えてくれるものと思われる。調査の結果、釧路湿原は、ヨシ群落またはヨシイワノガリヤス群落で代表される低層湿原であるという。その発達理由は、標高が低く、大小多数の河川が貫流し、その氾濫原として地下水位が高いためである。また場所によっては中間湿原（ミズグケ類を含む）も存在しており、編者らはこのような湿原を「島状混合湿原」と名づけ、当湿原の基本的な性格としている。（K. T.）

〔新刊紹介〕Margaret Jefferies著「Mount Everest National Park. Sagarmatha Mother of the Univers」A 5判, 192頁, 1991年発刊。\$ 18. 195. The Mountaineers。

サガルマータ国立公園は、ネパール北東部・クーンブをカバーしており、サガルマータ（エベレスト・8,848mをはじめとする8,000mを越える山々と氷河の密集する地域である。標高4,000mを越える場所は、世界的な高山植物の宝庫でもあり、幻の花ともいわれる青いケシをはじめとして、日本ではみられない多くの高山植物が生育しており、たいへん興味深い地域である。この地域はまた、ヒマラヤ山岳登山隊には欠かせないシェルパ族の故郷でもある。ここを訪れる人は必ず、想像をはるかに越える自然のスケールとその奥深さ、また過酷な風土に生きる人々の生活に圧倒されるであろう。本書は、この地域を訪れる旅行者が、公園内の地質・地形・気候や動植物相を満喫できる案内になっているが、そればかりではなく、人々の生活や宗教などについてもかなりの紙面をさいて案内してある。本書は写真も多く掲載されているため、視覚的に理解しやすく、この国立公園をより深く知るための助けとなる。なお高山植物の花が咲く夏は雨期でもあるため、残念ながら山の展望は望めない。また飛行機も欠航しがちであり、長い道のりを歩かねばならない。（関岡裕明）